

1/29 開催 第 10 回厚田区地域協議会

(協議事項) 住民の将来による新たな地域づくり ~地域の将来を見据えた対策について~

◎協議の意見等

・→課題の意見 ○→対策の意見

【会長から】

- 生産、加工、販売を一手に行う女性（お婆ちゃん）の特性を活かした第 6 次産業。
- 「葉っぱビジネス」。女性の力をどう地域に活かすか。
- 都市型で成功している事を田舎で真似するのはナンセンス。

【農業関係】

- ・現在、農家は本当に厳しく、将来が不安で仕方がない。
 - ・6 次化は理解できるが、それをメインとして行うのは現状厳しい。
 - ・少量生産だと、手間暇やコストのことを考えると割に合わない。
 - ・米農家としては、今のところはホクレンがなければ困る。
 - ・農業経営継承の問題。（継がせたくない…！？）
- JA北いしかりもブランド米を立ち上げる。その米は厚田米を使用。
- 6 次化は、農業、漁業、商工がそれぞれ連携し、互いに持ち味を活かすべき。
- おいしい厚田米が試食できる機会を設ける。売り方の工夫。イベントの活用。

【商工会関係】

- ・高齢、体調不良、商売が成り立たない理由で会員数が減っている。
- ・商工会議所との合併も考えるが、きめ細かなケアがしてもらえない不安がある。
- ・近隣の商工会との合併には無理がある。
- ・札幌に近いために、厚田区の商店はダメージを受けている。
- ・何か行動を起こそうと思っても、高齢の方が多いので難しい。

【はるにれの里関係】

- ・シイタケについては、一度風評被害で打撃を受けたが、今は回復している状況。
 - ・衛生センターの余熱を利用しシイタケを栽培している。
 - ・ゴミが有料化により少なくなっているため、熱源が少ない状況。
- オールシーズン熱源が来ないため、ペレットを活用している。

【漁業関係】

- ・水揚げされない時期は消費者がいなく、朝市なども年々客が減っている。
- ・組合員が高齢化している。
- ・危険が伴い、水揚げ量の減少により若者は漁師にならずに使われる身の方が多い。

【アクアレーン関係】

- 第1回展覧会はレベル高く、出品に気が引ける方もいる。
 - 厚田のイメージ戦略として行う重要な取り組み。
- 第2回に向けて、応募作品数200点を目標に精力的に営業活動している。

【戸田墓苑関係】

- 路線バス利用者による問題。散策、買い物、食事して帰れる時間帯がない。
- 海外客への対応。英語での看板やパンフレットなど必要かもしれない。

【あつたの森支援の会「やまどり」関係】

- 厚田区にはビューポイントがたくさんあるが、うまく活かされていない。
- ふるさとの森は眺めがいい場所があるため、人が集まる手段を考えるべき。

【その他】

- 厚田を元気にするためには参加型。
- 体験型にし、付加価値を付けるなど、地元の資源を使ったビジネスを考える。